



吉野川市
人口ビジョン・総合戦略策定のための
アンケート調査結果
【概要版】



平成 27 年 7 月

吉野川市

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、今年度策定する「地方版総合戦略」において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けた効果的な施策を推進するため、また、「地方版人口ビジョン」の策定において、市民の結婚・出産・子育ての希望、地方移住に関する希望などのニーズの把握することを目的に行いました。

(2) 調査概要

【アンケート調査】

- 調査対象者：吉野川市内在住の「16～39歳の方」（平成27年6月1日現在）
吉野川市内在住の「高校生」
※「高校生」は16歳～18歳（平成27年6月1日現在）を対象としています。
- 調査期間：「16～39歳の方」平成27年6月12日（金）～平成27年6月26日（金）
「高校生」平成27年6月22日（月）～平成27年6月26日（金）
- 調査方法：「16～39歳の方」郵送による配付・回収
「高校生」高等学校を通じての配布・回収

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
16～39歳の方	3,000	753	25.1%
高校生	299	259	86.6%

【Web調査】

- 調査対象者：株式会社マクロミルに登録しているモニタで、近畿地方・中国地方・四国地方在住の「20歳以上の方」
- 調査期間：平成27年7月15日（水）～平成27年7月16日（木）
- 調査方法：インターネットリサーチ

地域	都道府県	有効 サンプル数 (カッコ内は 希望サンプル数)	地域	都道府県	有効 サンプル数 (カッコ内は 希望サンプル数)
近畿地方	大阪府	103 (100)	中国地方	岡山県	42 (40)
	兵庫県	42 (40)		中国地方計	
	京都府	42 (40)	四国地方	香川県	103 (100)
	奈良県	21 (20)		愛媛県	42 (40)
	滋賀県	21 (20)		高知県	42 (40)
	和歌山県	42 (40)		徳島県	21 (20)
近畿地方計		271 (260)	四国地方計		208 (200)
合計					521 (500)

(3) 報告書の見方

【アンケート調査】・【Web 調査】

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」もしくは「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

2. 調査結果の概要

結婚・出産・子育てについて

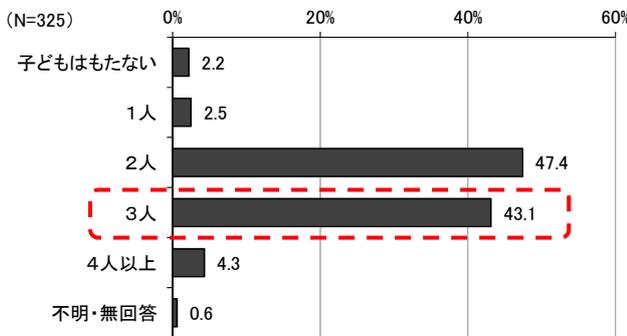
16～39 歳対象調査（アンケート）

設問対象【結婚している方】

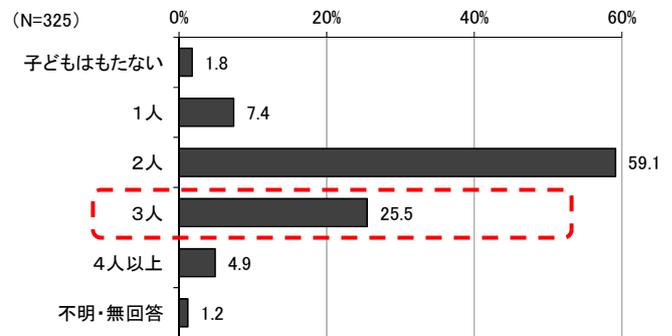
結婚している方の理想的な子どもの人数と最終的に持つつもりの子どもの人数をみると、理想的な人数では「3人」が43.1%であるのに対し、最終的に持つつもり的人数では25.5%となっています。

その理由をみると、「子育てや教育にお金がかかるから」が84.6%と多数を占めています。

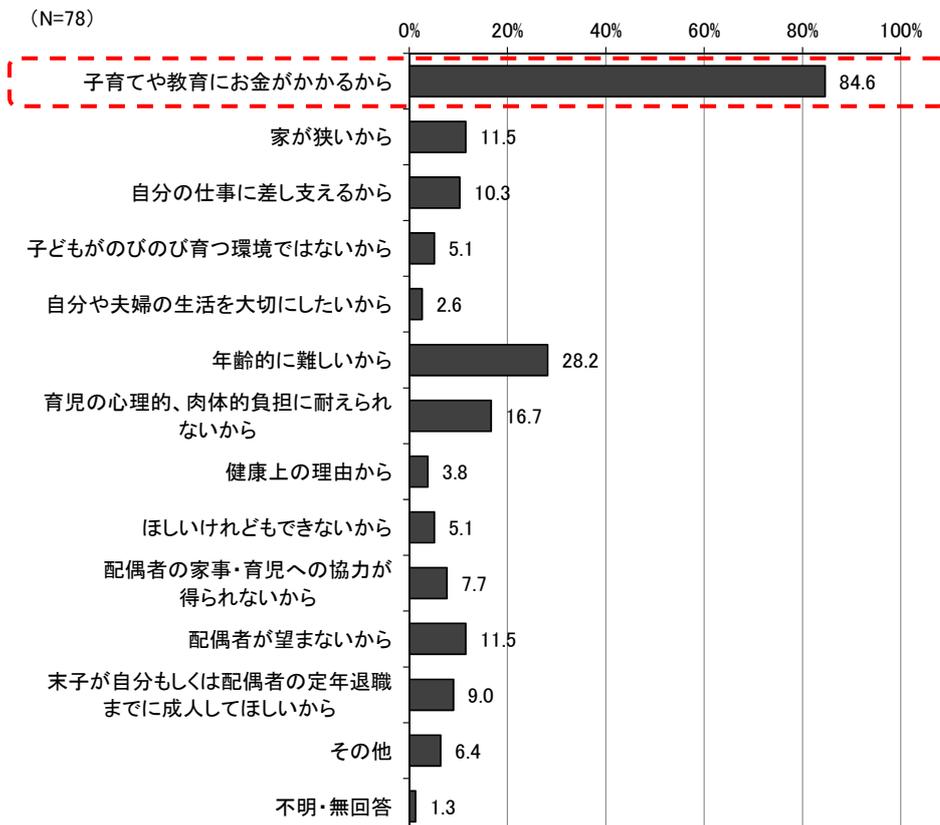
■理想的な子どもの人数



■最終的に持つつもりの子どもの人数



■持つつもりの子どもの人数が理想より少ない理由

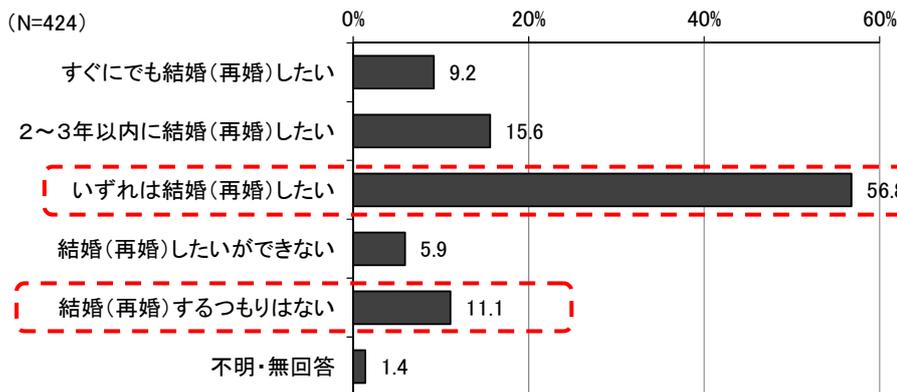


設問対象【結婚していない方】

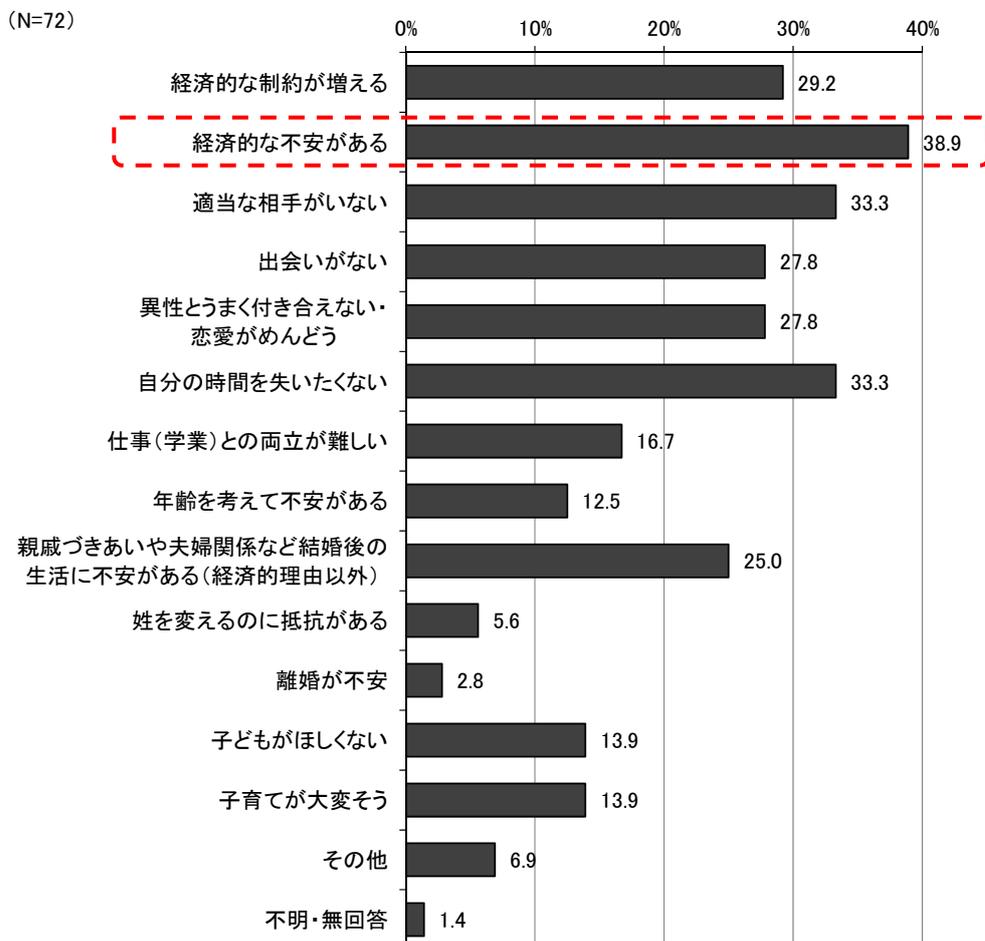
結婚していない方の結婚（再婚）願望の有無をみると、「いずれは結婚（再婚）したい」が56.8%と最も高くなっていますが、「結婚（再婚）するつもりはない」と回答した方が11.1%います。

結婚（再婚）するつもりはない理由をみると、「経済的な不安がある」が38.9%と最も高くなっています。

■結婚（再婚）願望の有無



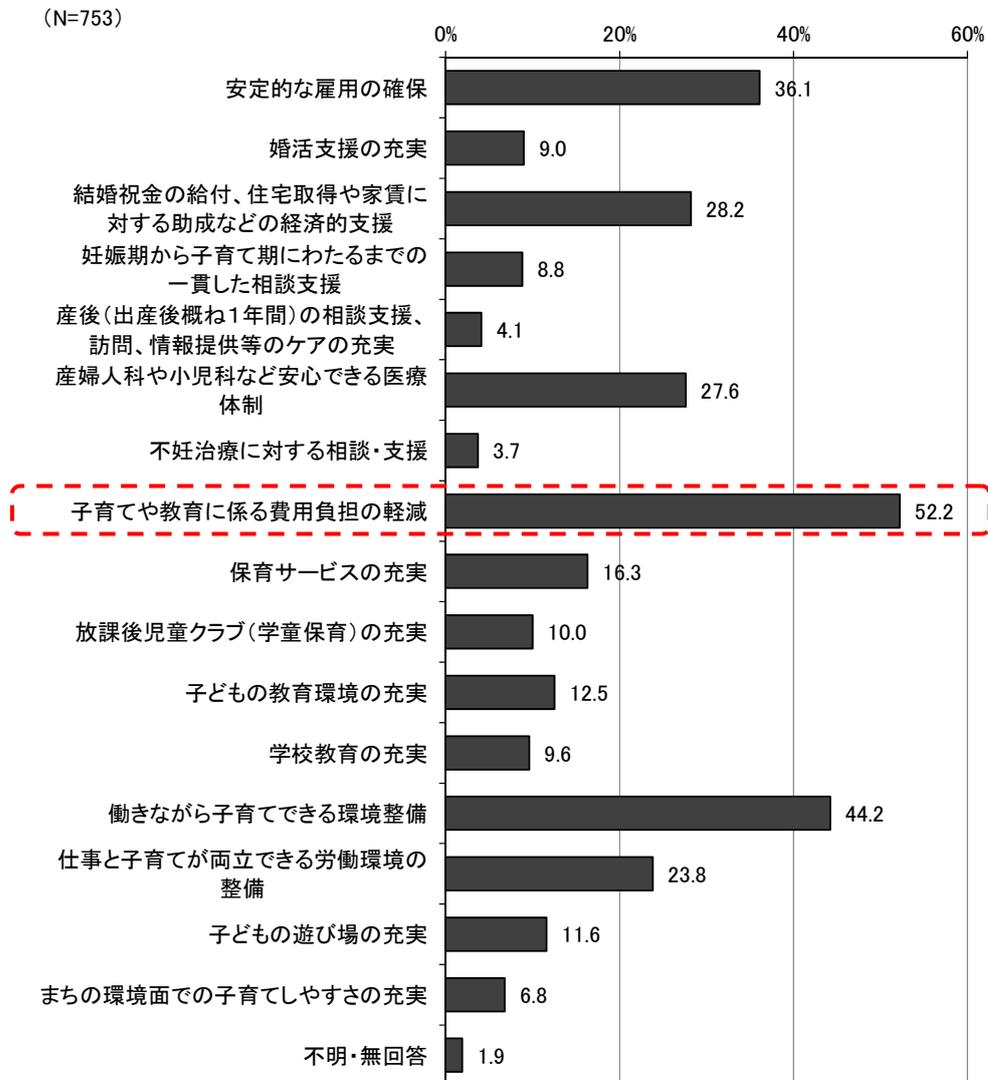
■結婚（再婚）するつもりはない理由



設問対象【全員】

結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、必要な（だった）支援・対策をみると、「子育てや教育に係る費用負担の軽減」が最も高く、52.2%となっています。

■結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、必要な（だった）支援・対策



結婚・出産・子育てについての総括

【結婚している方】が、本当に持ちたいと思っている人数の子ども持たない（持てない）理由と、【結婚していない方】が、結婚を考えない（考えられない）理由の最たるものとして、共通して「経済的な負担・不安」があがっています。

また、結婚・出産・子育ての支援・対策においても、「子育てや教育に係る費用負担の軽減」を望んでいるなど、結婚・出産・子育てにおいて、経済的な要因が影響していることがうかがえます。

今後、市において、出生率を向上させ、自然動態における人口減少の抑制を図るためには、特に若年層の雇用を促進し、経済的不安の解消に努めるとともに、子育て支援のさらなる充実を図り、安心して子どもを生み育てることができるまちづくりを進める必要があります。

移住・定住について

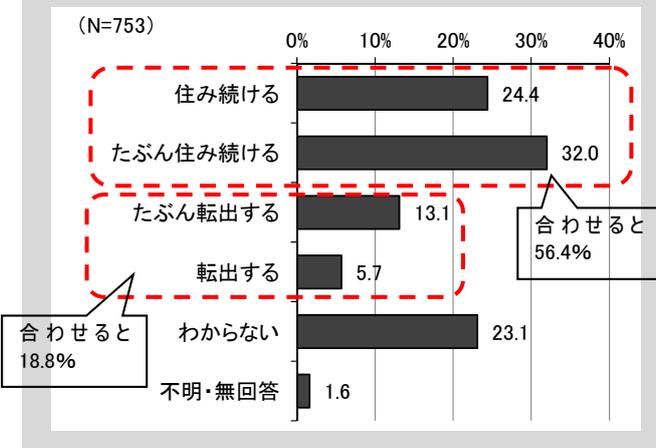
16～39 歳対象調査（アンケート）

設問対象【将来、市からの転出を考えている方】

将来、吉野川市からの転出を考えている方の転出のきっかけをみると、「親からの独立」や「転勤や転職」、「結婚」が高くなっていますが、「住宅環境の改善のため（広さや設備、生活の利便性など）」も 12.0%となっています。

また、転出の際に特に重視することをみると、「交通・通勤の利便性のよさ」が 50.0%と最も高く、次いで「就労の場があること」が 43.0%となっています。

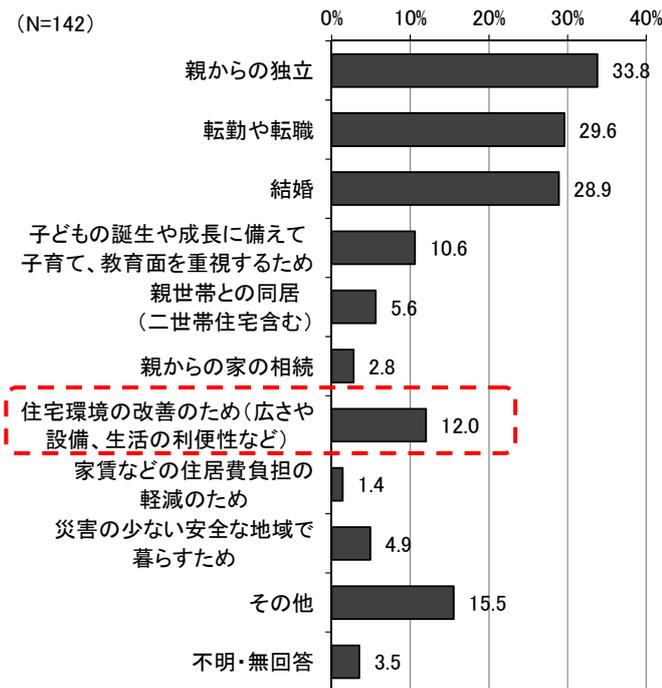
<参考>市に住み続けるか【全員】



■ 転出時の重要視項目



■ 転出のきっかけ



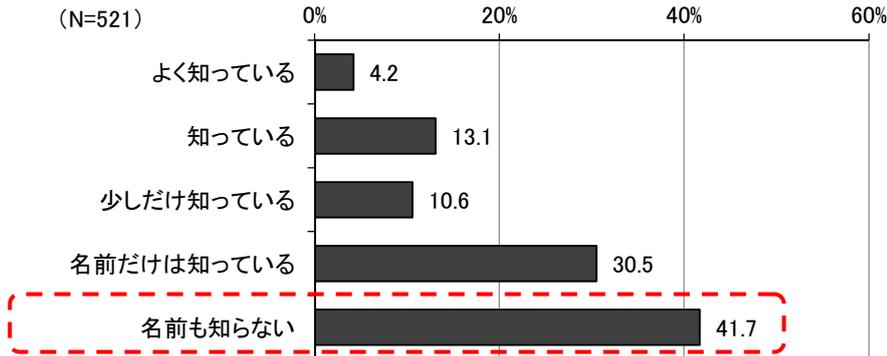
20歳以上対象調査（Web）

設問対象【全員】・【名前も知らない方以外】

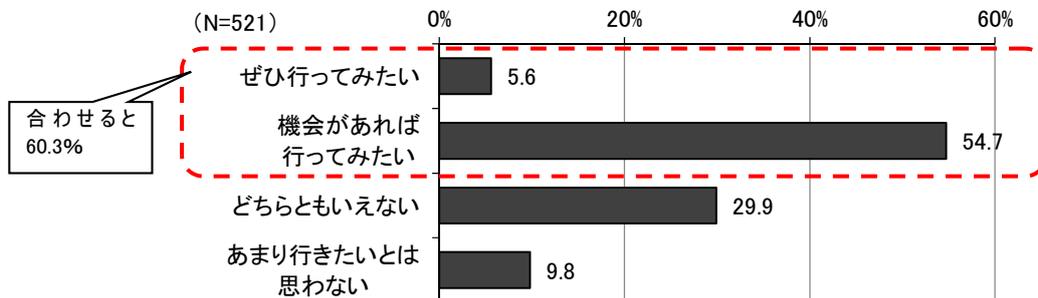
吉野川市を知っているかをみると、「名前も知らない」が41.7%と最も高くなっています。

また、今後、吉野川市を訪れたいと思うかをみると、「機会があれば行ってみたい」が54.7%と最も高くなっています。

■市の認知度【全員】



■市への訪問希望【全員】



移住・定住についての総括

将来、吉野川市からの転出を考えている方は18.8%となっており、転出のきっかけとして、「住宅環境の改善のため（広さや設備、生活の利便性など）」と回答した方が12.0%います。また、転出の際の重要視項目としては、「交通・通勤の利便性のよさ」が50.0%と最も高くなっています。

市の認知度については、調査範囲が近畿地方・中国地方・四国地方と比較的近隣でありましたが、「名前も知らない」が41.7%と最も高くなっています。また、今後、吉野川市を訪れたいと思うかについては、「ぜひ行ってみたい」が5.6%、「機会があれば行ってみたい」が54.7%となっており、合わせて60.3%が、市を訪れたいと思っています。

今後、市民の生活圏における利便性（特に交通面）の向上に努めるとともに、市の魅力を効果的にPRし、転入者の増加や市外転出者数の抑制を図り、社会動態における人口減少対策を講じる必要があります。また、ニーズに応じた観光振興を展開し交流人口の増加や移住促進へとつなげていくためには、市の認知度の向上とともに、快適に暮らせる、魅力あるまちづくりを進める必要があります。

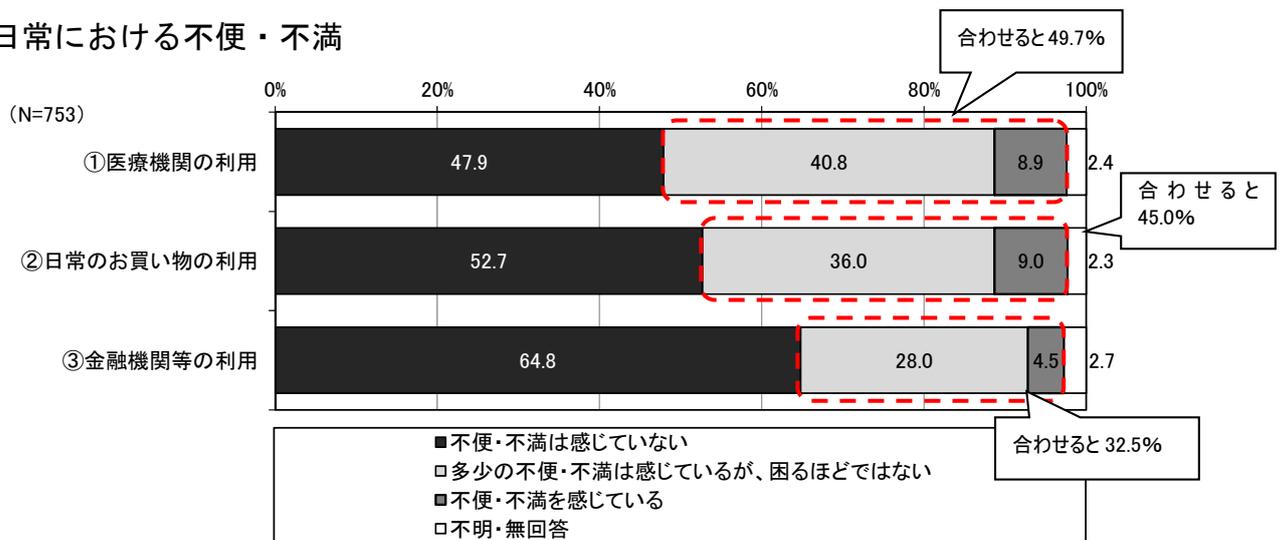
地域連携について

16～39 歳対象調査（アンケート）

設問対象【全員】

日常における不便・不満の要因をみると、「医療機関の利用」において、【不便・不満を感じている】（「不便・不満を感じている」と「多少の不便・不満を感じているが、困るほどではない」を合わせたもの）が49.7%となっており、【不便・不満を感じていない】の47.9%を上回っています。また、「日常のお買い物の利用」においても、【不便・不満を感じている】が45.0%となっています。

■ 日常における不便・不満



地域連携についての総括

日常における不便・不満の要因について、「不便・不満を感じている」においては、『日常のお買い物の利用』が9.0%、『医療機関の利用』が8.9%、『金融機関等の利用』が4.5%と、いずれも1割を切っていますが、「多少の不便・不満を感じているが、困るほどではない」においては、『医療機関の利用』が40.8%、『日常のお買い物の利用』が36.0%、『金融機関等の利用』が28.0%となっています。

今後、市において、市民の生活満足度を向上させ、定住促進を図るためには、市民の生活圏における不便・不満（特に医療機関・日常のお買い物の利用）の解消に努めるとともに、地域コミュニティの活性化を図り、住みやすいまちづくりを進める必要があります。

進路や就職について

16～39 歳対象調査（アンケート）

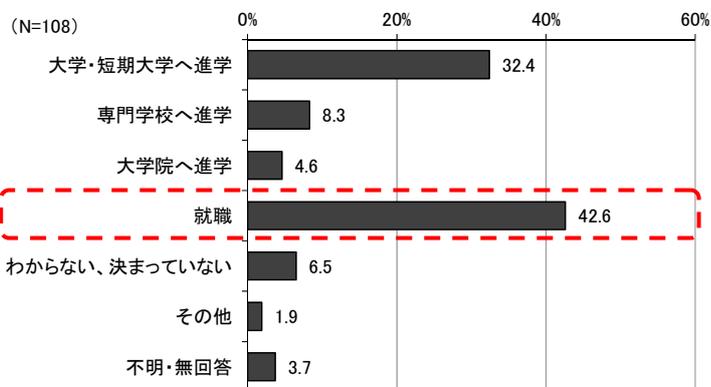
高校生対象調査（アンケート）

設問対象【16～39 歳：高校生・専門学校生・大学生（短大を含む）】【高校生：全員】

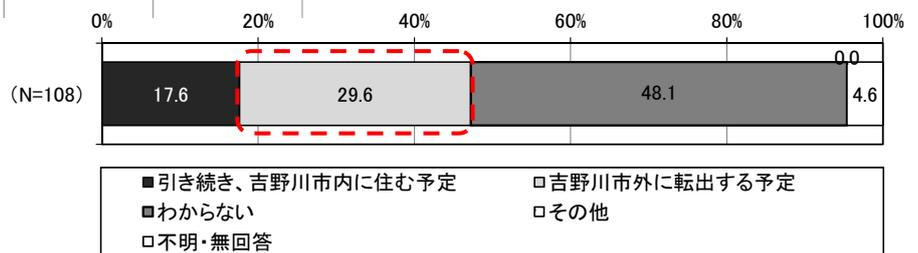
卒業後の進路希望をみると、【16～39 歳】においては、「就職」が 42.6%と最も高く、【高校生】においては、「大学へ進学」が 37.8%と最も高くなっています。

また、卒業後の予定居住先をみると、【16～39 歳】においては、「引き続き、吉野川市内に住む予定」の 17.6%を「吉野川市外に転出する予定」の 29.6%が上回っています。

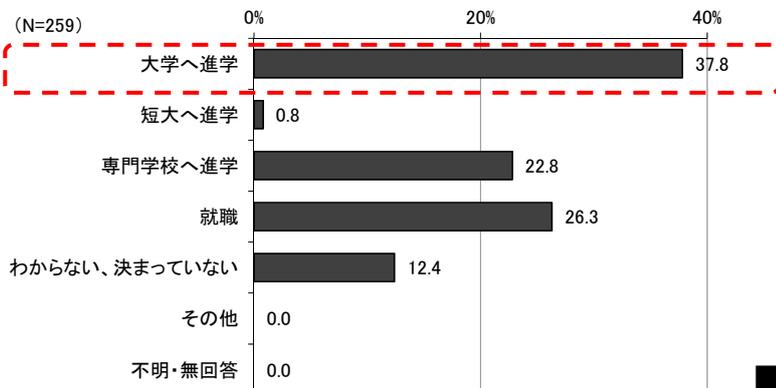
■卒業後の進路希望【16～39 歳】



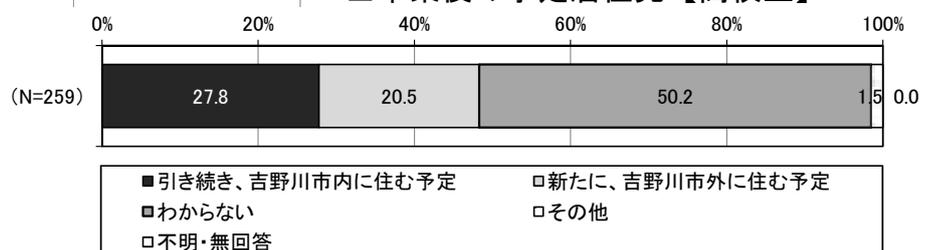
■卒業後の予定居住先【16～39 歳】



■卒業後の進路希望【高校生】



■卒業後の予定居住先【高校生】



16～39 歳対象調査（アンケート）

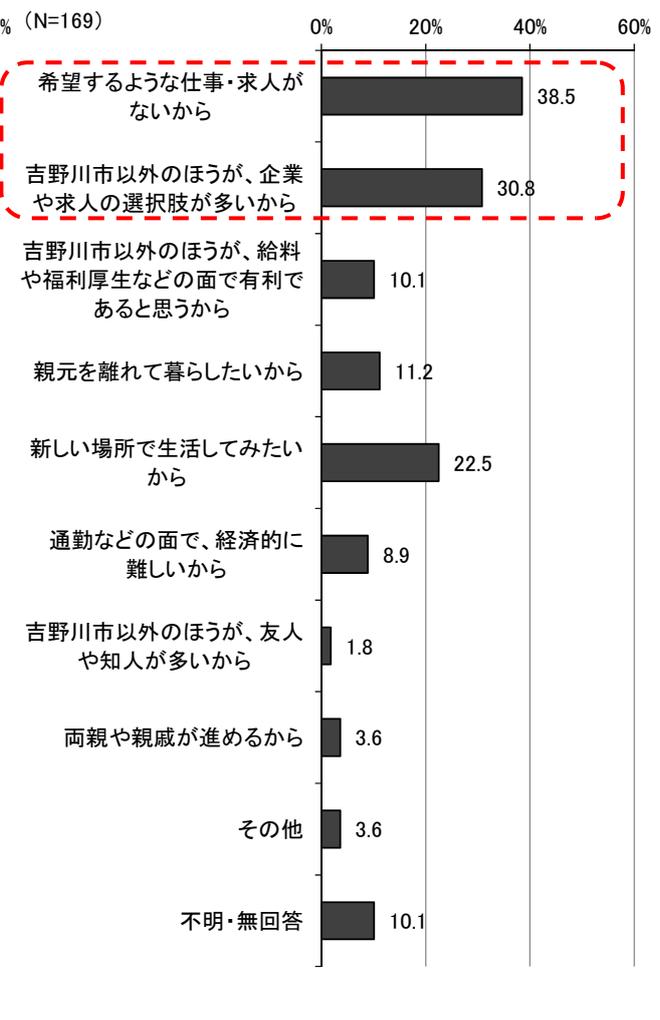
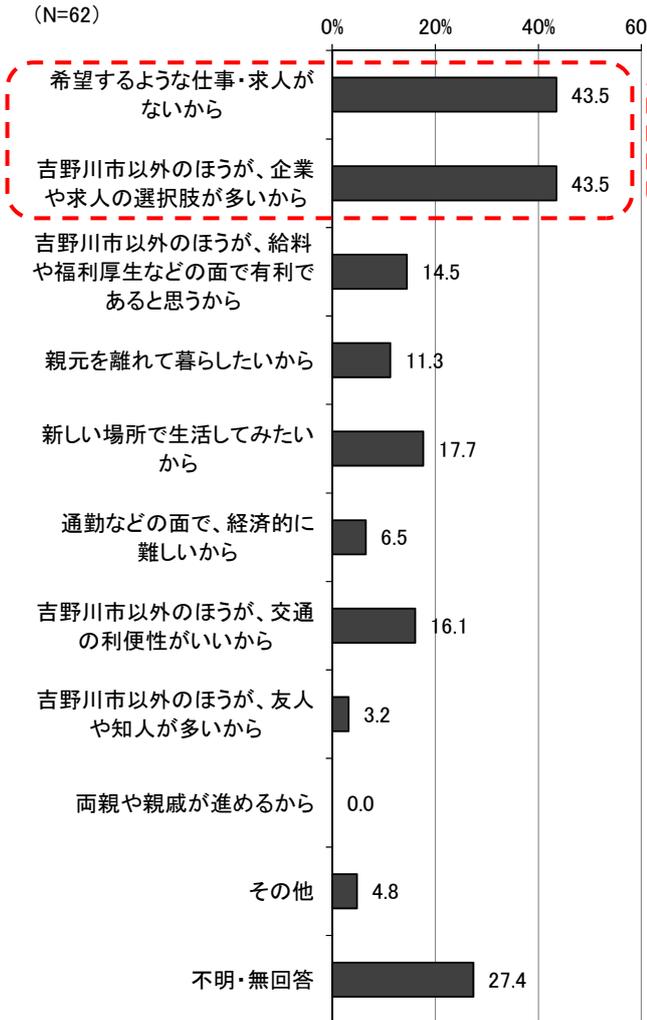
高校生対象調査（アンケート）

設問対象【16～39 歳】・【高校生】ともに【卒業後、吉野川市外に転出する予定の方】

希望就職地が市以外である理由をみると、【16～39 歳】・【高校生】ともに、「希望するような仕事・求人がないから」、「吉野川市以外のほうが、企業や求人の選択肢が多いから」が高くなっています。

■希望就職地が市以外である理由 【16～39 歳】

■希望就職地が市以外である理由 【高校生】

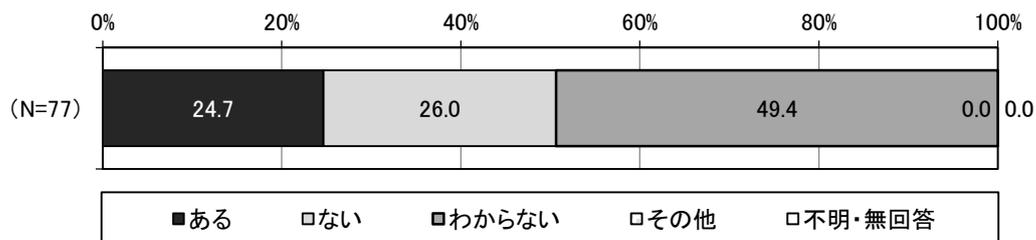


16～39 歳対象調査（アンケート）**高校生対象調査（アンケート）****設問対象【16～39 歳】・【高校生】ともに【卒業後、吉野川市外に転出する予定の方】**

【16～39 歳】において、将来、吉野川市に戻ってきたいかをみると、「どちらかといえば思う」が 14 件と最も多くなっています。【高校生】においては、外に進学しても、就職の際には県内に戻ってきたい希望があるかをみると、「ある」が 24.7%、「ない」が 26.0%となっています。

■将来、吉野川市に戻ってきたいか【16～39 歳】

将来、吉野川市に戻ってきたいと思いますか。		件数(件)	割合(%)
1	思う	6	18.8
2	どちらかといえば思う	14	43.8
3	どちらかといえば思わない	10	31.3
4	思わない	2	6.3
5	不明・無回答	0	0.0
合計(N)		32	100.0

■県外に進学しても、就職の際には県内に戻ってきたい希望があるか【高校生】**進学や就職についての総括**

卒業後の予定居住先について、【16～39 歳】においては、「市外」が「市内」を上回っていますが、【高校生】においては、「市内」が「市外」を上回っています。

また、希望就職地が市以外である理由については、【16～39 歳】・【高校生】ともに「希望するような仕事・求人がないから」、「吉野川市以外のほうが、企業や求人の選択肢が多いから」が高くなっています。

今後市において、転出した若年層のUターンを増加させるためには、特に就職における希望に沿えるよう、雇用の創出・確保に努めるとともに、Uターン就職を希望する学生等へのきめ細かな就職支援など、住み続けたい・帰ってきたい・まちづくりを進める必要があります。

吉野川市に対する気持ちについて

16～39 歳対象調査（アンケート）

高校生対象調査（アンケート）

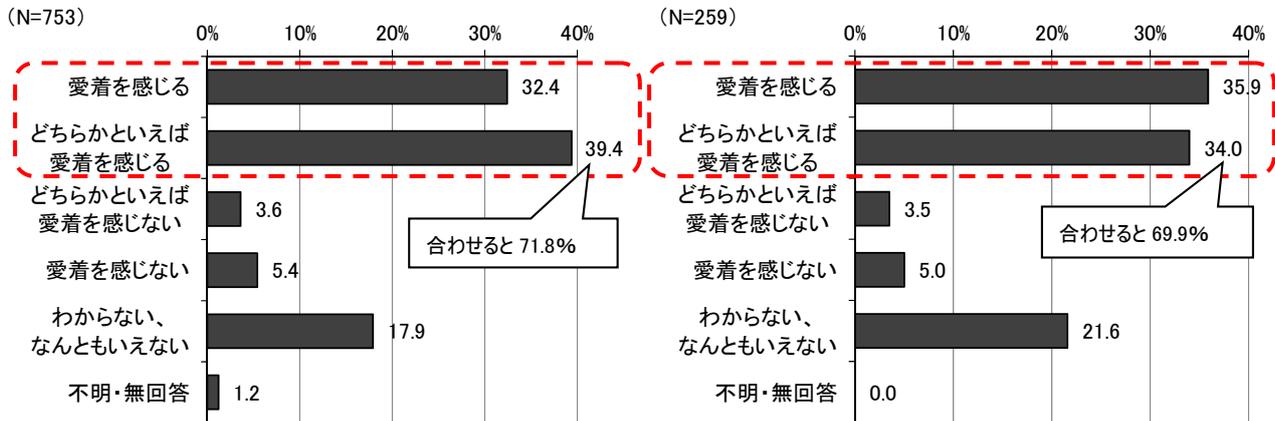
設問対象【全員】

吉野川市への愛着についてみると、16～39 歳においては『愛着を感じる』（「愛着を感じる」と「どちらかといえば愛着を感じる」を合わせたもの）が71.8%、『愛着を感じない』（「愛着を感じない」と「どちらかといえば愛着を感じない」を合わせたもの）が9.0%、「わからない・なんともいえない」が17.9%となっています。また、高校生においては、『愛着を感じる』が69.9%、『愛着を感じない』が8.5%、「わからない・なんともいえない」が21.6%となっています。

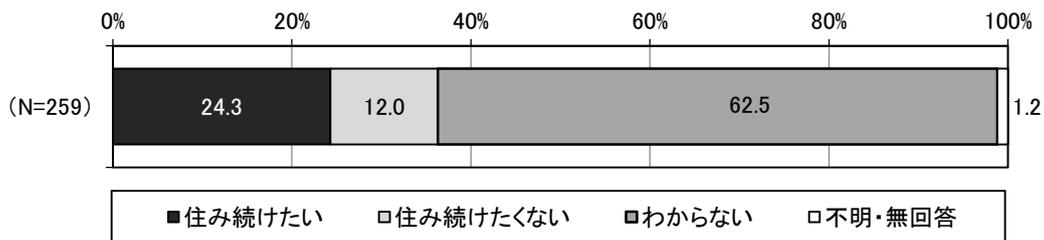
また、吉野川市に住み続けたいかをみると、「住み続けたい」が24.3%と、「住み続けたくない」の12.0%を上回っています。

■市への愛着の有無【16～39 歳対象調査】

■市への愛着の有無【高校生対象調査】



■市に住み続けたいか否か【高校生対象調査】



吉野川市に対する気持ちについての総括

吉野川市への愛着度については、【16～39 歳】・【高校生】ともに高くなっていますが、「わからない・なんともいえない」と回答した方が、【16～39 歳】においては17.9%、【高校生】においては21.6%います。また、吉野川市に住み続けたいかについては、「わからない」が62.5%となっています。

今後、市において、若年層の定住促進を図るためには、「わからない・なんともいえない」と回答した方を1人でも多く「住み続けたい」に移行するため、雇用の創出・確保等に合わせて、ふるさと教育の推進や伝統文化の継承等、郷土愛を育むまちづくりを進める必要があります。

仕事に対する気持ちについて

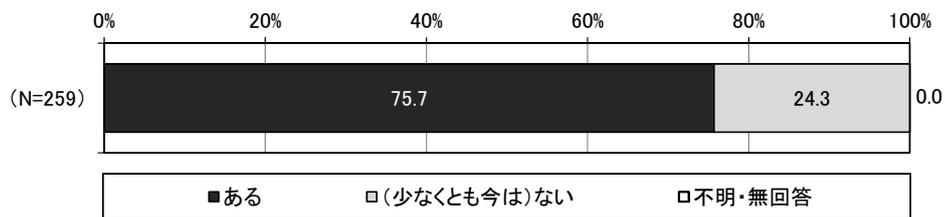
高校生対象調査（アンケート）

設問対象【将来、就きたい職業がある方】・【全員】

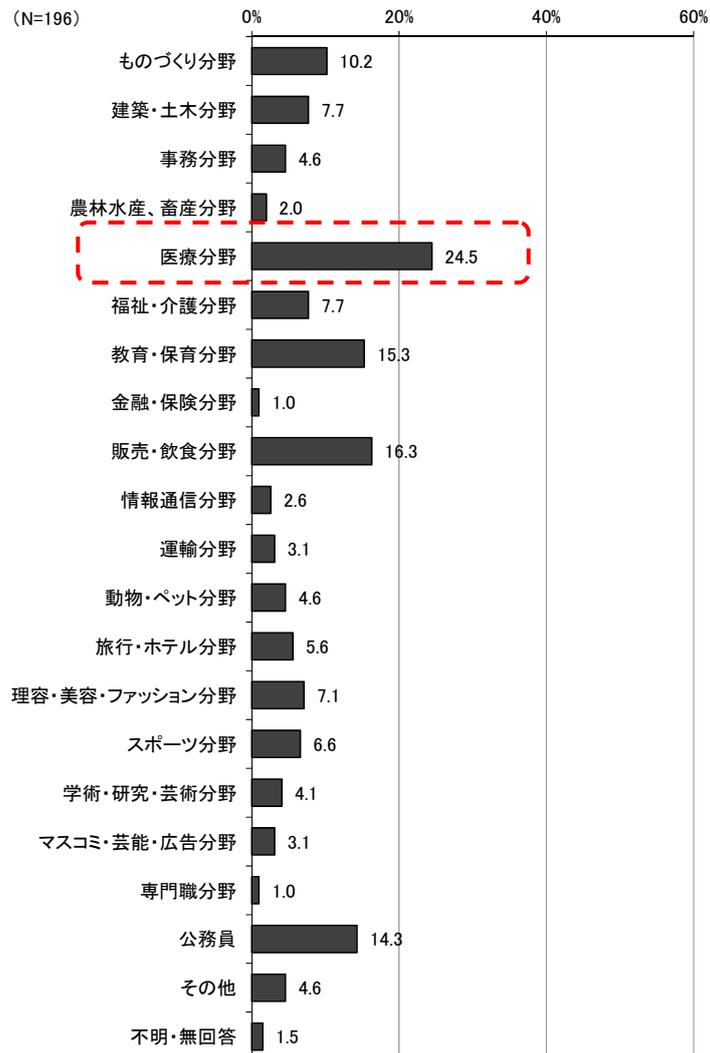
将来就きたい職業の有無についてみると、「ある」が75.7%、「(少なくとも今は)ない」が24.3%となっています。

就きたい職業の内容についてみると、「医療分野」が24.5%と最も高く、次いで「販売・飲食分野」が16.3%となっています。

■就きたい職業の有無



■就きたい職業の内容

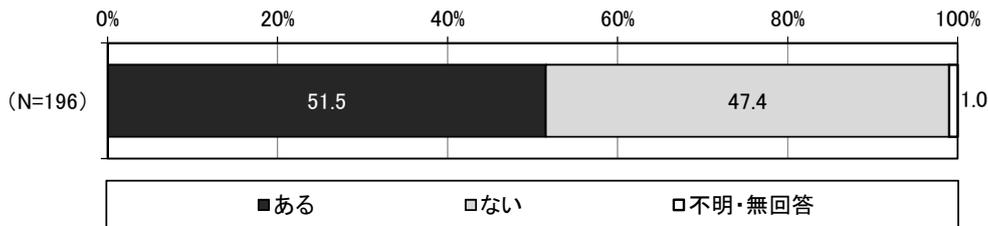


高校生対象調査（アンケート）

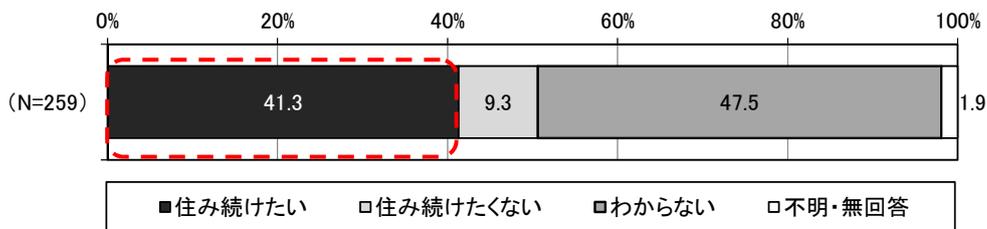
設問対象【将来、就きたい職業がある方】・【全員】

就きたい仕事が通勤可能圏内にあるかをみると、「ある」が51.5%、「ない」が47.7%となっています。また、通勤可能圏内に希望する仕事があれば、吉野川市に住み続けたいかをみると、「住み続けたい」が41.3%となっています。

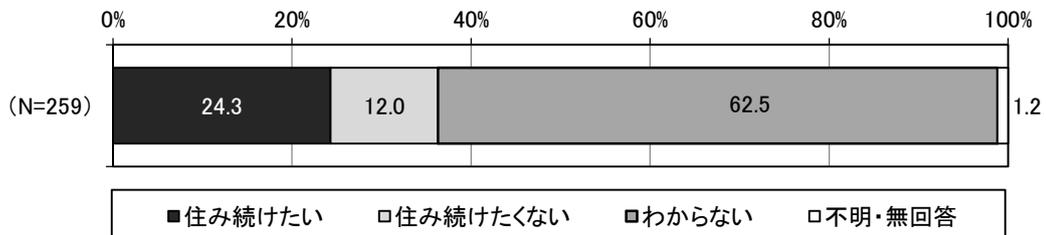
■就きたい職業は自宅から通勤可能な範囲にあるか【将来、就きたい職業がある方】



■通勤可能な範囲に希望する仕事があれば、市に住み続けたいか【全員】



■市に住み続けたいか【全員】※仕事のことは問わず、住み続けたいかを聞いた設問



仕事に対する気持ちについての総括

就きたい仕事が通勤可能圏内にあるかについては、「ある」が51.5%、「ない」が47.4%と、約半々となっています。また、通勤可能圏内に希望する仕事があれば、吉野川市に住み続けたいかについては、「住み続けたい」が41.3%となっており、仕事のことは問わず、ただ吉野川市に住み続けたいかを聞いた設問における「住み続けたい」の24.3%を大きく上回っています。

今後市において、転出した若年層のUターンを増加させるためには、特に就職における希望に沿えるよう、市内に就労の場を創り出すなど、雇用の創出・確保に努めるとともに、Uターン就職を希望する学生等へのきめ細かな就職支援など、住み続けたくない・帰ってきたくないまちづくりを進める必要があります。

吉野川市
人口ビジョン・総合戦略策定のためのアンケート調査結果
【概要版】

発行年月：平成 27 年 7 月

発 行：吉野川市

〒776-8611 徳島県吉野川市鴨島町鴨島 115 番地 1

T E L : 0883-22-2221

F A X : 0883-22-2244
